

(令和4) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(境 谷) 児 童 館 ・ 学 童 保 育 所

	活動の基本目標 (指針)	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	<p>安全・衛生の確保</p> <p>健康の管理・情緒の安定</p> <p>基本的生活習慣の確立</p> <p>社会生活技術の獲得</p>	<p>帰館後・昼食前・おやつ前の手洗い・うがいの励行</p> <p>朝の会やお帰りの会での健康チェック</p> <p>補食としてのおやつ提供</p> <p>整理整頓の指導</p> <p>下館時の帰り方の指導</p> <p>あいさつの励行</p> <p>自己表現の指導</p> <p>トラブル解決に向けての援助</p>	<p>早く遊びたくて手洗いやうがいを忘れがちな児童に対して、習慣づけを行うことができた。その一方で、一度に大勢が殺到すると手洗い場が混雑し、安全面での課題もある。</p> <p>ひとりひとりの所在を顔を見ながら確認することで、健康状態やいつもと違ったところがないかを確認することができた。朝の会やお帰りの会に入れない児童や、部屋に入れても静かに座ってられない児童が増えてきているので、どの子もスムーズに活動に参加することができるよう工夫が必要。</p> <p>おやつはできる限り自然のもの、手作りのものを提供するよう心掛けている。手作りおやつが美味しそう匂いに誘われて、おやつを楽しむ児童の姿がみられる。手作りおやつは保護者からも好評である。学童の人数が増えていく中で、安全確保やあそびの広がり、ひとりひとりへの個別援助と身体にいい、美味しいおやつを提供することの両立が課題である。</p> <p>くつをくつ箱にしまう、かばんをロッカーに片付けるなどの基本的生活習慣の指導を根気よく続けてきた。職員が声かけすることで習慣づけてきている子が大半であるが、発達に課題を抱える子ども達への声掛けのしかた、動線の確保やハード面での工夫が課題である。</p> <p>集団で帰ることの意味を繰り返し指導することで、子ども達の安全意識を高めることができた。</p> <p>「ただいま」「ありがとう」「ごめんね」など、きちんと言葉にして相手に伝えることの大切さを根気よく指導した。繰り返し伝えることで習慣づけられたが、1年生から6年生までと対象が広がってくるなかで、年齢や育ち、個性に応じた声掛けや対応の仕方を工夫していかなければならない。</p> <p>子どもたちが自分の気持ちを整理したり、相手にわかるような言葉で伝えることができるように、機会を見つけては個別に指導を行った。少しずつ自分の気持ちを伝えることができるようになってきている。高学年の児童や、トラブルを繰り返す児童に対して、職員がもっとたくさんの引き出しを持てるようにしていくことが必要。</p> <p>けんかや仲間外れなどのトラブルが起こるたびに、当事者だけでなく周囲の子どもたちも巻き込んで、子どもどうしてトラブルが解決できるようになるよう、根気よく毎日指導を行っている。職員に言われなくても、自分からほかの児童同士のトラブルに介入しようとする児童ができていくことが成果である。一方で、気にしていてもなかなか入っていけない児童や、言葉に出すことの困難な児童への指導のしかたに工夫が必要。</p>
子ども育成機能	<p>生活体験の拡大</p> <p>社会性の養成</p> <p>自立の促進と自主性の尊重</p>	<p>入会式に向けての取り組み</p> <p>修了式に向けての取り組み</p> <p>春のおでかけ お誕生日会</p> <p>地域との交流活動 高学年の取組</p> <p>グループ活動・当番活動</p> <p>学年会議</p>	<p>入会式に向けて、プレゼント制作やリハーサルをすることで、新入会児童を温かく迎え入れる心の準備をさせ、かつ、上級生としての自覚を促すことができた。発達に課題のある児童などが取り組みに参加できるよう工夫が必要。</p> <p>1年間の節目の行事に参加することで、自分自身や仲間との関係を振り返るよい機会となった。</p> <p>春には大蛇が池公園へおでかけした。自然のなかでのんびり過ごすことができた。</p> <p>お誕生日月のこども達と相談してメニューを決めている。いつものおやつとは違う特別メニューを楽しみにしている子どもも多い。</p> <p>コロナ下で老人福祉センターとの交流事業や、地域のまつりに参加することが難しいなか、こども食堂の手伝いなどを通して、地域住民との交流を深めることができた。</p> <p>高学年行事として、6年生だけのおでかけを企画・実行した。学年としての一体感を持たせることができた。</p> <p>コロナ下でグループ活動が難しいなか、グループで活動するみんな遊びを取り入れたり、日常的な課題をグループごとに話し合わせたり、創意工夫することで、自分だけでなく他の子どものことも考えるように指導してきた。リーダーとしての自覚を持ち、役目をしっかりと果たすことができた。</p> <p>子ども同士で意見を出し合う機会を意識して設けた。日頃あまり自分の意見を言わない子が中心になって会議を進めたり、遊びの中で見るのとは違う一面を見ることができた。</p>
子育て支援機能	<p>子育てに必要な情報の提供と交換</p> <p>子育ての仲間づくり</p> <p>子育てを支えるネットワーク形成</p>	<p>連絡帳の活用・学童クラブだよりの発行</p> <p>保護者懇談会の実施</p> <p>個人懇談 個別育児相談</p> <p>小学校との連携 地域との連携</p>	<p>日頃送り迎えに来られない保護者と、連絡帳や学童クラブだよりを通じて情報交換することができた。子どもによってはなかなか保護者におたよりや連絡帳を渡さなかったり、保護者が多忙などのために目を通すことができないケースが見られた。どの保護者にも情報がいきわたるようにすることが課題。</p> <p>保護者懇談会では、学童クラブとは何か、学童クラブでの生活などの基本的事項の説明だけでなく、保育方針や館の思いも保護者に伝える機会とした。コロナ下で短い時間ではあるが保護者交流会を開催することができ、保護者同士のコミュニケーションを図る機会を持つことができた。人数が増えていくなかで、ひとりひとりの声を聴くことが困難になっていくことが予想される。</p> <p>個人懇談では、日頃顔を見ることのできない保護者ひとりひとりとじっくり話すことで、子どもの家庭での様子や保護者の子育てに対する思いや悩みなどを聞き、館からは学童クラブでの子どもの様子を伝え、館や職員の思いを伝える機会となった。保育や事業のあるなかで、なかなか十分な時間をとることができず、保護者の話を十分に聞くことができないケースもあった。</p> <p>保護者の子育てや家庭・学校生活などの個別相談を適宜行った。お迎えのときや保育中に来られるケースが多数で、落ち着いて話を聞けるスペースがないことが課題。</p> <p>低学年の帰館時や授業参観、運動場使用時など、日頃より小学校との連絡を密にするよう心掛けている。子どもの学校での様子を聞いたり、館での様子を伝えたりすることで、子どもの全体像の把握に役立っている。</p> <p>コロナ下で老人福祉センターとの交流や、運営協力会会議、保育園や地域機関との共同イベントの開催が難しかった。</p>

